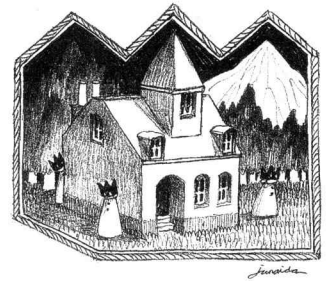


朝日歌壇俳壇



〈日曜日のブローチ 11〉 junaida

短歌時評 沖縄の複雑性を詠む

山崎 聡子

どれくらい食べれば傷を癒せるか「食べなさい、食べなさい」と迫る嬸の屋良健一郎「KOZA」のこの歌に立ち止まった。屋良は一九八三年、沖縄市（旧コザ市）生まれ。「KOZA」という表記は、米軍統治時代を偲ばせるところに、そこが基地を擁する土地であることを二重写しにする。嬸が一身に負う傷は、戦争による飢えの、沖縄が体験してきた苦難の歴史の集積でもあるだろう。右腕に「沖縄人」と彫りであるジョン

と知り合う週末のバー「ナイチャー」とは結婚するな」妹に相撲を見つづけた父が言うなり一方での歌集は、沖縄が孕み入り組んだ姿をも描写する。米軍軍人であろうジョンの腕に彫られた「沖縄人」の入れ墨。内地のスポーツであり、海外出身力士が多くを占める相撲を楽しむ祖父が、「ナイチャー」とは結婚するな」と言うこと。ここには一つの軸では語り得ない複雑さが渦巻くように存在する。

撃たれてもたぶん平気な乗りものに米軍基地のフェスにて触れる行進をしたことがあるわたしたち軍隊よりは手を抜きながら平安まじりの新人賞受賞作を引いた。一九八八年生まれの平安は読谷村出身。米軍の払い下げ品を売る店や基地のフェスなどの日常が乾いた文体で描かれるが、そこにぬるりと入り込む「戦争」の連続性が沖縄の肌感覚なのだろう。慰霊の日を前に、嬸の傷を抉るような議員の発言もあった。これらの歌を読みながら、故郷を好悪だけで語ることができる内地の特権を振り返った。（歌人）

風信

松本秀歌集「Easy Livin'」 2019年から24年までの歌を収めた第5歌集。「リア充の王様」といえばリア王できつと悲惨な最期となる、なれ」（典々堂・2200円）

久保田淳校注「百人一首」 一首ごと丁寧な解釈し、各作者の小伝や和歌史年表も掲載。書き下ろしの解説で「百人秀歌」との密接な関係についても言及。（岩波文庫・1716円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。

◆長谷川 耀選

長嶋遊き夢は夏空かけ廻る

（八王子市）額田 浩文

ナイターは毎晩ながらさりながら

（朝倉市）深町 明

☆人類のほかは裸足や梅雨に入る

（神戸市）島田 雄作

大夕焼4三振のデビュー戦

（瑞浪市）岩島 宗則

昭和近く長嶋ひばり裕次郎

（長野県立科町）村田 実

夏草のいつの間にか闇をなす

（さいたま市）春日 重信

又力漬の重石うたふか夏の寺

（東京都文京区）片岡 マサ

東京の夏の谷間を神田川

（さぬき市）鈴木 幸江

大谷の吊打たかだか夏の空

（島根県邑南町）椿 博行

孤独死となれば恥ずかし寝る裸

（岐阜市）金子 秀重

【評】長嶋茂雄さんの追悼句、山のように。幸福な人。一席。芭蕉が枯れ野なら長嶋は夏空か。二席。「その夜、巨人戦は雨天中止」と前書き。三席。何とひ弱な我ら人類よ。十句目。考えなくていいことを考える。これも生きている証しか。

◆大串 章選

日々育つ青田に命溢れをり

（水戸市）伊師 繁次

蟻地獄ガザの子の声聞こえ来る

（さいたま市）齋藤 紀子

田に水が入り機械で早苗植う

（岩見沢市）村岸 基量

睡蓮の上を走つてみたきかな

（松山市）正岡 唯真

底なき我家素通りつばくらめ

（仙台市）柿坂 伸子

緑陰や武士の墓前の異邦人

（横浜市）秋野 晃枝

はまなすや今は昔の灯台守

（柏市）河西 和章

父の日や仕舞ひしまの資本論

（大和市）岩下 正文

真剣に生きて死にたき夕焼かな

（川崎市）杵渕 有邦

知らぬ間に父の日過ぎて喜寿となる

（三重県明和町）西出 泥舟

【評】第1句。植田はやがて瑞々しい青田となり、秋には黄金色の稲田となる。第2句。イスラエル軍のガザ地区への攻撃により、多くの子供たちが尊い命を失った。正に地獄。第3句。嘗ては手で一つ一つ苗を植えたが今は田植機で植える。

◆高山 れおな選

☆人類のほかは裸足や梅雨に入る

（神戸市）島田 雄作

亀の子の化学式書く青嶺かな

（千葉市）團野 耕一

雨燕きのふの雲と来たるかな

（上尾市）山口 流離

響りに頸傾げる鴉かな

（ドイツ）ハルツォーク洋子

めまといが私の涙まっている

（成田市）かとうゆみ

約束の涼しく生れし木陰かな

（稲城市）日原 正彦

風薫る注射に泣いた子がナース

（奈良市）小山寿美代

トンネルを抜け万緑の喝采へ

（名古屋）相澤ひさを

父の日のいつものベンチ父ら居る

（中門市）升水恵美子

初任給の子のもてなしや緑の夜

（伊勢原市）川北 廣子

【評】島田さん。上五中七の事実を生かすのは「梅雨に入る」から来る皮膚感覚だ。團野さん。亀田文様にも似た化学式を、亀の子の歩みで学ぶ——と読めば「亀の子」は掛け言葉に。山口さん。「きのふの雲」が梅雨時の空気感を表して巧妙。

◆小林 貴子選

栗の花実になるまでの謎多し

（大和市）平子 進

日めくりの透けたる明日夏きさす

（横浜市）山田 知明

父の日や勝たかつた腕相撲

（郡山市）寺田 秀雄

不可能の文字も知らずに滝登り

（筑紫野市）二宮 正博

長嶋の大空振りに夏力む

（桶川市）戸室 和博

いななきて葵祭の列止まる

（京都市）名村 悦武

バンバンと声で威嚇の水鉄砲

（東京都江戸川区）高山 檀

どことなく顔まで映ゆる更衣

（札幌市）長谷川淑子

幟旗柳に結はへ水菓売

（高山市）直井 照男

これも白あれも白真つさらけに夏

（袋井市）本多 りつ

【評】一句目、紐状の栗の花が、秋にはおいしい実になる。その過程を毎日観察したら楽しいだろう。二句目、日めくりカレンダーの紙の特質を捉え、明日が明るい。三句目、父にととう勝てなかった腕相撲。四句目、滝登りに挑戦する山人。